



只見町は、日本の自然の中心地

自然首都・只見

第三次

只見町子ども読書活動推進計画

令和6年3月

只見町教育委員会

第1章 第三次計画策定に当たって

1 子ども読書活動の意義

インターネット、スマートフォン等のメディアの急速な普及により、子どもたちの環境は大きく変化しています。利便性が高まった反面、子どもたちの活字離れ、読書離れの傾向に拍車がかかることが懸念されます。

読書によって、子どもは読解力、想像力、思考力、表現力を養い、新しい世界を知り、新しい発見をします。子どもの読書活動は心の成長に大きな影響を与え良い本との出会いを重ねることにより感性が磨かれコミュニケーション能力も高まります。子どもたちが本に出会い、読書に親しみ、読書の楽しさ、すばらしさに気づくとともに、読書を通じて豊かな人間性を育む環境をつくることが大切です。

今後も、家庭・学校・地域・行政等が連携を図り、子どもの主体的な読書活動を支えるための取り組みを積極的に推進することが必要です。

2 計画策定の背景

子どもたちの読書の現状把握として、令和4年度に福島県教育委員会で実施した「読書に関する調査」の結果によると「1ヶ月の読書冊数」は小学生では「8冊以上」読んでいる児童が52.0%と半数を超えています。中学生では「1冊～3冊」と回答した生徒の割合が最も高く、全体の62.0%を占めています。高校生では「0冊」と回答した生徒の割合が43.9%と最も高く、年齢が上がるにつれて読書離れが進んでいる状況が続いています。「読書のきっかけ」では、小学生は「学校の図書室」で、中学・高校生では「本屋」が最も高くなっています。「読まなかった理由」では、小学生では、「テレビ・ゲームなどの方が楽しい」が最も高く、中学生では「勉強等で忙しい」高校では「スマートフォン・携帯などの方が楽しい」が最も高くなっています。また、「読んだ本の媒体」については、「デジタル本のほうが多い」と回答した生徒の割合が、小学校では2.5%、中学校では6.1%、高校では11.4%であり学年が上がるにつれ割合が高くなる傾向が見られます。

令和6年2月に町内の保育所・小中学校・高校の保護者を対象に読書活動のアンケート調査を実施したところ、「子どもたちがもっと本を読むようになるにはどうしたらよいか」の問いに対し、「本に触れさせる環境づくり」と考えている保護者が多く、読み聞かせや本に触れさせる機会の必要性を求めています。

第二次只見町子ども読書活動推進計画の終了年度にあたり、今までの取り組みを検証し、将来を担う子どもたちの読書活動の重要性と社会情勢の変化を踏まえて、第三次只見町子ども読書活動推進計画を作成することとしました。

3 計画の位置づけ

この計画は、「子ども読書活動の推進に関する法律」（平成13年12月公布）第9条第2項の規定に基づき、第五次「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画（令和5年3月策定）」、第四次「福島県子どもの読書活動推進計画・ふくしまの未来をひらく読書の力（平成27年2月策定）」を基盤とし、「第七次只見町振興計画（令和2年3月策定）」等との整合性のもとに、本町の現状を踏まえた計画として、只見町教育委員会が策定したものです。

第2章 第二次計画の検証

この5年間（平成31年度～令和5年度）の取り組みの成果と課題を検証することにより、今後の町における子ども読書活動推進の方向性を見出します。

1 指標の検証

指標項目	現況値	目標・期待値
小学校の読書冊数	月18.6冊	月20冊
中学校の読書冊数	月2.4冊	月3冊
高校生の読書冊数	月1.9冊	月2冊

【現況値：直近値データー令和5年度町の小・中・高校生調査結果より】

小学校・中学校・高校生ともに目標・期待値に達していません。

今後も、各関係機関が連携し継続的な取り組みが必要です。

2 家庭における取り組み

幼児期は、ことばや心の発達に影響を与えるだけでなく、豊かな人間性を育む上で大切な時期です。家庭を中心とした読書習慣が根付くことは子どもの成長過程において非常に大切なことであり、保護者自身が読書に親しみ、その楽しさを伝えていくことが大きな読書環境づくりとなります。

保護者へのアンケートでは、「親が読むようにする」「一緒に読み聞かせてあげる」「本がいつでもある環境づくり」等、本に興味を持たせたい考えを持っている保護者が多い状況です。一方、行政側では、カルガモクラブの絵本を活用した幼児向けの事業、未就学保護者向けの子育てのノウハウを支援する事業や、本を贈呈するブックスハートプレゼント事業（※1）を実施してきました。

家庭は、子どもが最初に本に興味を持つ場所であり、保護者の関わりは重要であることは言うまでもありませんが、家庭での読書習慣があたりまえとなるような行政も含めた継続的な取り組みが必要です。

※1 ブックスハートプレゼント事業

新生児、保育所満了時及び小学校・中学校・高校の卒業時に「本の心」を子どもたちにプレゼントする事業。

3 保育所における取り組み

保育所は、子どもが初めて集団として交流する場です。人間形成の基礎を育てる重要な時期であり、本に親しむための環境づくりに取り組んでいます。特に、子どもの成長にあわせた読み聞かせを行い、本に対する楽しさや喜びを持てるような取り組みを行っています。

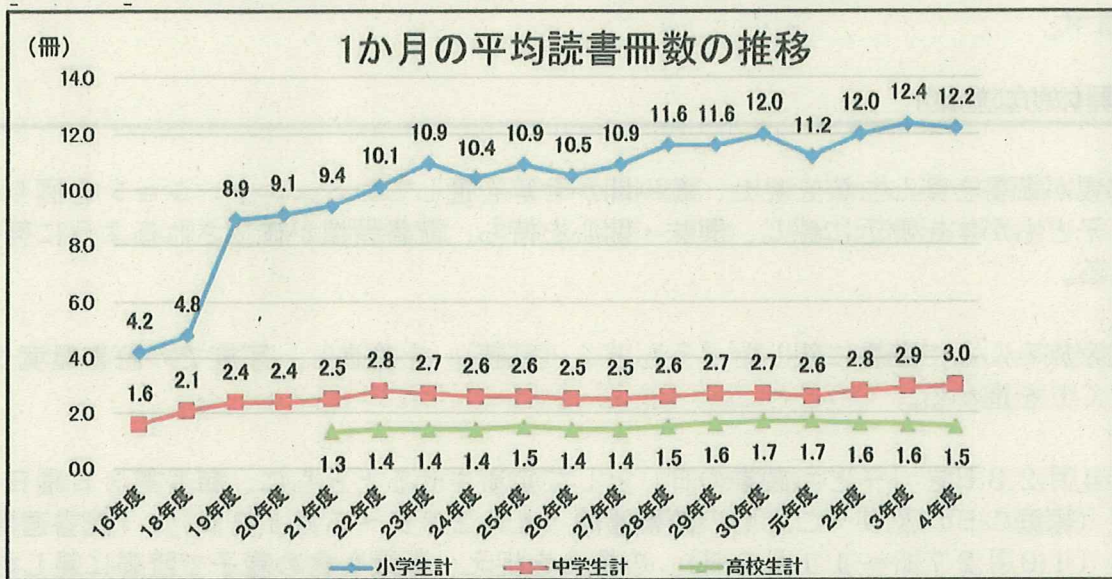
引き続き、子どもたちが自主的に本を楽しめるような読み聞かせを進めて行くとともに、読書ボランティア等による読み聞かせの機会を作る、保育所の絵本貸し出しなどにより家庭での読み聞かせが日常的になるよう保護者に働きかけるなどの取り組みも進めていく必要があります。

第3章 子どもの読書活動推進のための方策

1 指標の設定

本計画を推進するにあたり、福島県教育委員会が令和4年11月に実施した読書に関する調査「1ヶ月の平均読書冊数の推移」の結果によると、小学生全体で12.2冊、中学生全体で3.0冊、高校生全体で1.5冊でした。また、1ヶ月の平均読書冊数は、小学校2年生の18.0冊が最高であり、小・中・高校生ともに学年が上がるにしたがって減少している傾向が見られます。この傾向は、只見町でも同様な結果となっております。

(グラフ：福島県内の1ヶ月の平均読書冊数の推移) H16～R4年



◎只見町の現況地・目標・期待値

指標項目	現況値 (月)	目標・期待値 (月)
小学生の読書冊数	18.6冊	20冊
中学生の読書冊数	2.4冊	3冊
高校生の読書冊数	1.9冊	2冊

【現況値は令和5年度の町の小・中・高校生調査結果より】
 【目標値・期待値は5年後の令和10年度とする。】

3 保育所での読書活動の推進

子どもたちは、家庭を中心とした地域社会で様々な体験を積み重ね、初めて集団として交流する場が保育所です。乳幼児期から本に親しむことの楽しさや喜びを伝え、子どもが自主的に本を楽しむようになるための環境づくりが重要です。

子どもの年齢や発達に応じた読み聞かせを積極的に取り組むとともに、図書の整備・充実を図り、子どもたちが絵本や紙芝居に親しめる環境を整備することが必要です。

【具体的な施策】

- ①保育士や図書ボランティアの読み聞かせによる絵本にふれあう機会の充実を図る。
- ②保育所入所児童説明会の際、保護者を対象とした研修講座を開催する。
- ③保育所たより等で保護者に対する子どもの読書活動の意義や重要性の啓発を図る。
- ④保育士に対する読書に関する研修会等への参加する機会を増やす。
- ⑤絵本や図鑑等を児童や保護者に貸し出し、親子で読書を楽しむ「うちどく（家読）」を推進する。
- ⑥只見学ガイドブックを活用した機会を設け、子どもが地域に親しみを持つようになるようにする。
- ⑦人生の節目である保育所修了時に「ブックスハートプレゼント事業」を継続する。
- ⑧地域住民や小中高生による読み聞かせ、紙芝居などの機会を増やす。

5 地域での読書活動の推進

本町には公立図書館が無く、全ての子どもが、気軽に本に出会い、楽しめるようにするためには、子どもの身近な読書環境の整備が大切です。

特に、公民館図書室は、子ども向け図書資料の収集・提供のほか、民間団体やボランティアとの連携・協力による子どもの読書活動の推進に向けた取組みを充実することが期待されております。保育所、学校図書館との連携や、子ども読書活動推進への協力・支援が今後、より一層重要となっております。

図書ボランティアは、地域において子どもが読書に親しむための多様な機会を提供することにより、子どもの読書活動を推進することが期待されています。この活動を奨励するためには、関係機関が活動の場や研修の機会を提供することや、新たなボランティアの養成を支援することが必要です。

【具体的な施策】

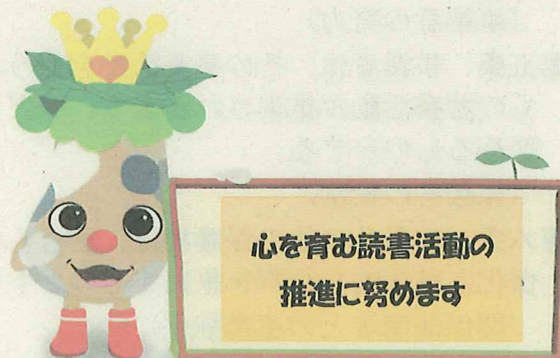
- ①公民館図書室等において保育所や学校との連携を図り、子どもの成長に応じた本を充実し、図書室の利用しやすい環境づくりに努める。
 - ア. 子ども読書関連情報や多方面の学習の機会を提供する。
 - イ. ベストセラー図書など各分野における特設コーナーを配置する。
 - ウ. 公民館同士での図書資料の相互貸借等により、蔵書の共有化を図るとともに、インターネットによる図書の検索を可能にするよう努める。
 - エ. 公民館図書室において、いつでも只見学（郷土学習）が深められるよう、只見学やユネスコエコパークに関する書籍を閲覧できるようにする。
 - オ. 公民館内に子どもが読書したり、学習したりできる場所を確保するとともに、外国語等、多文化にふれる環境づくりに努める。
 - カ. 休日でも本が返却できる場所を設置する。
- ②図書ボランティアの活動の場や機会を積極的に提供するとともに、読み聞かせ講座等の研修の充実を図る。
 - ア. 放課後子ども教室や子育てひろば事業等の中で、読み聞かせ等を行う。
 - イ. 只見ホームやこぶし苑等と連携し、図書ボランティアや子どもたちが開催する読み聞かせ会を実施する。
 - ウ. 只見おもしろ学ガイドブックを活用した学習の場を提供する。
- ③子どもの読書を支える町民活動・運動の展開をする。
 - ア. 図書ボランティア等の様々なボランティア団体の育成を図る。
 - イ. 各家庭で所有している書籍の有効活用を図る。
 - ウ. 4月23日を「子ども読書の日」として定着させるとともに、毎月第3日曜日（家庭の日）及び「こどもの読書週間（4月23日～5月12日）」、「読書週間（10月27日～11月9日）」の機会を捉え、新聞も含め親子で読書に親しむことの必要性を啓発する。（※広報ただみ「新着図書紹介」に追記啓発を図る）

第4章 効果的な読書活動の推進

子どもへの効果的な読書活動を推進するためには、家庭、学校、地域、行政が子どもの発達段階に応じた取り組みを進める必要があります。そのためには、各関係機関が連携し、広報活動や事業の展開を実施し、随時計画の見直しや検証を行い、時代に沿った活動として地域が一体となった取り組みが求められます。

【推進内容】

1. 子どもの読書推進のため、「只見町子ども読書活動推進委員会」において推進計画についての成果と課題を検証し、効果的な計画の推進に努めます。
2. 学校司書や図書ボランティア団体と連携し、子どもの読書活動を推進するとともに、図書の環境整備に努めます。
3. 定期的に関係機関との連携会議を開催し、情報交換や各種研修への参加に取り組みます。
4. 子ども読書推進計画を町民に公表し、町民一体となった推進に努めます。



第九条 都道府県は、子ども読書活動推進基本計画を基本とするとともに、当該都道府県における子どもの読書活動の推進の状況等を踏まえ、当該都道府県における子どもの読書活動の推進に関する施策についての計画（以下「都道府県子ども読書活動推進計画」という。）を策定するよう努めなければならない。

2 市町村は、子ども読書活動推進基本計画（都道府県子ども読書活動推進計画が策定されているときは、子ども読書活動推進基本計画及び都道府県子ども読書活動推進計画）を基本とするとともに、当該市町村における子どもの読書活動の推進の状況等を踏まえ、当該市町村における子どもの読書活動の推進に関する施策についての計画（以下「市町村子ども読書活動推進計画」という。）を策定するよう努めなければならない。

3 都道府県又は市町村は、都道府県子ども読書活動推進計画又は市町村子ども読書活動推進計画を策定したときは、これを公表しなければならない。

4 前項の規定は、都道府県子ども読書活動推進計画又は市町村子ども読書活動推進計画の変更について準用する。

（子ども読書の日）

第十条 国民の間に広く子どもの読書活動についての関心と理解を深めるとともに、子どもが積極的に読書活動を行う意欲を高めるため、子ども読書の日を設ける。

2 子ども読書の日は、四月二十三日とする。

3 国及び地方公共団体は、子ども読書の日趣旨にふさわしい事業を実施するよう努めなければならない。

（財政上の措置等）

第十一条 国及び地方公共団体は、子どもの読書活動の推進に関する施策を実施するため必要な財政上の措置その他の措置を講ずるよう努めるものとする。

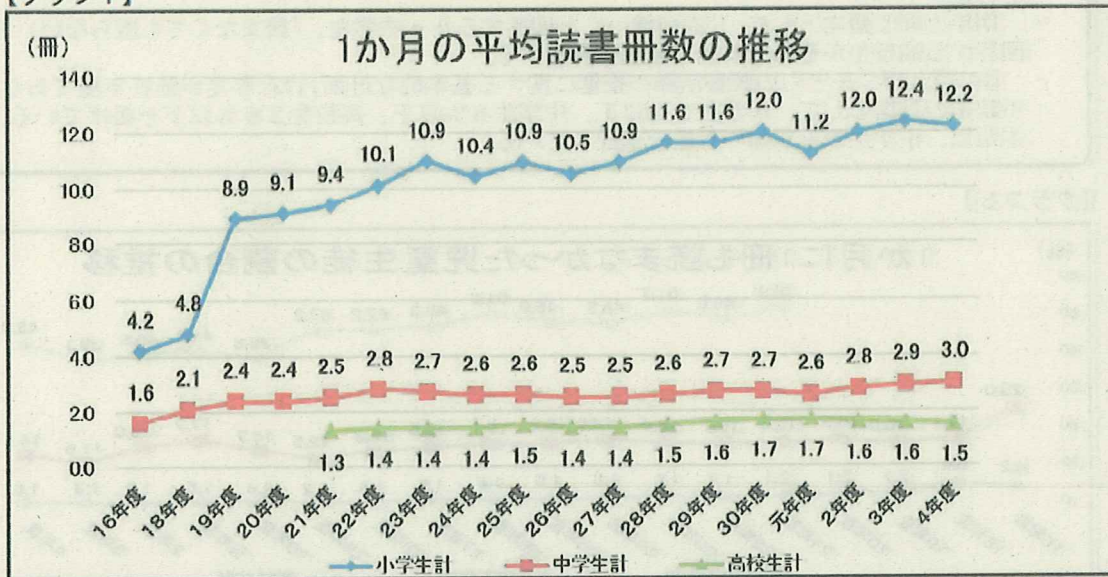
附 則

この法律は、公布の日から施行する。

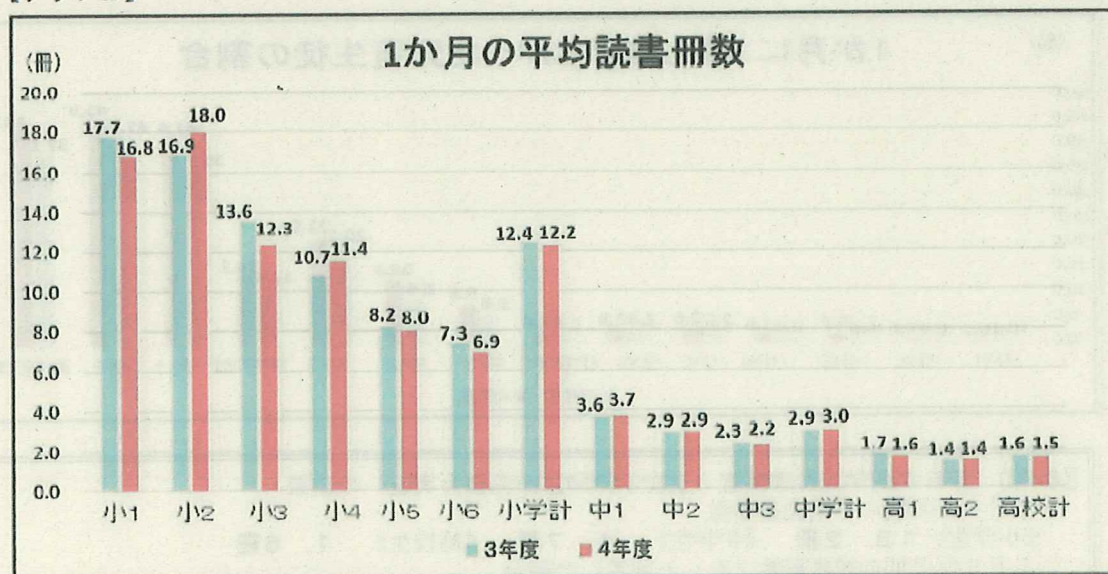
2 1か月の平均読書冊数について（【グラフ1】及び【グラフ2】参照）

- 令和4年11月調査（高校生は12月調査）における1か月の平均読書冊数は、小学生全体で12.2冊（前年度12.4冊）、中学生全体で3.0冊（前年度2.9冊）、高校生全体で1.5冊（前年度1.6冊）であった。前年度調査と比較すると、小学生が0.2冊、高校が0.1冊減少し、中学生が0.1冊増加している。
- 1か月の平均読書冊数は、小学校2年生の18.0冊が最高であり、そこから小・中・高と学年が上がるにしたがって減少している。
- 小学生全体では「8冊以上」と回答した児童の割合が52.0%（前年度54.1%）と半数を超えている。中学生全体では「1冊」～「3冊」と回答した生徒の割合が高く、全体の62.0%を占めている。高校生全体では「0冊」と回答した生徒の割合が43.9%と最も高い。
- 中学生における1か月の平均読書冊数が、調査を始めて以来、最も高い数値となった。

【グラフ1】



【グラフ2】

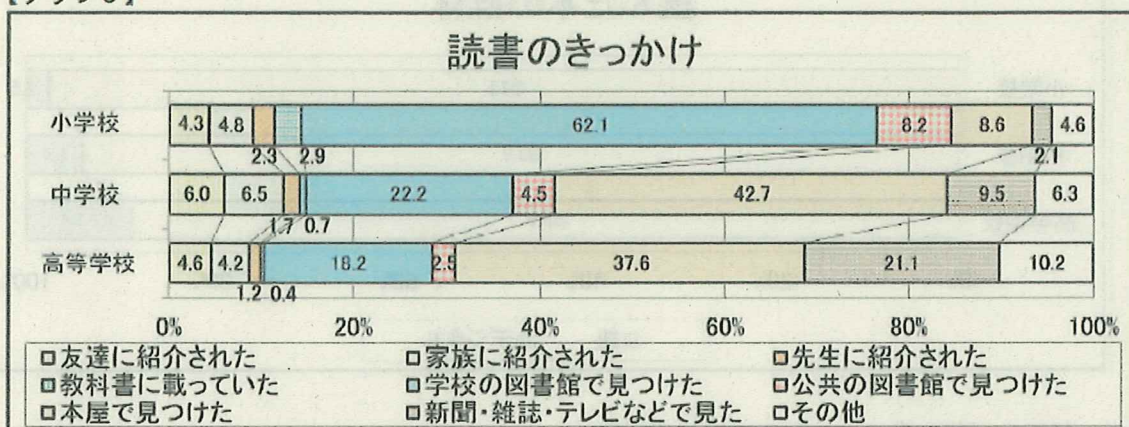


4 「読書のきっかけ」について（【グラフ5】参照）

- 小学校では、「学校の図書館で見つけた」と回答した児童の割合が全ての学年において最も高く、小学生全体では62.1%（前年度61.5%）を占める。
- 中学校では、「本屋で見つけた」と回答した生徒の割合が全ての学年において最も高く、中学生全体では42.7%（前年度45.4%）を占める。
- 高等学校においても中学校と同様の傾向が見られ、「本屋で見つけた」と回答した生徒の割合が最も高く、高校生全体では37.6%（前年度42.4%）を占める。

小学校においては特に、学校図書館が児童の読書活動にもたらす影響が大きいといえる。また、学年が上がるにつれ、「その他」と回答する割合が高くなっている。スマートフォンやタブレット等の普及により、インターネット上からの情報がきっかけとなっていることも考えられる。

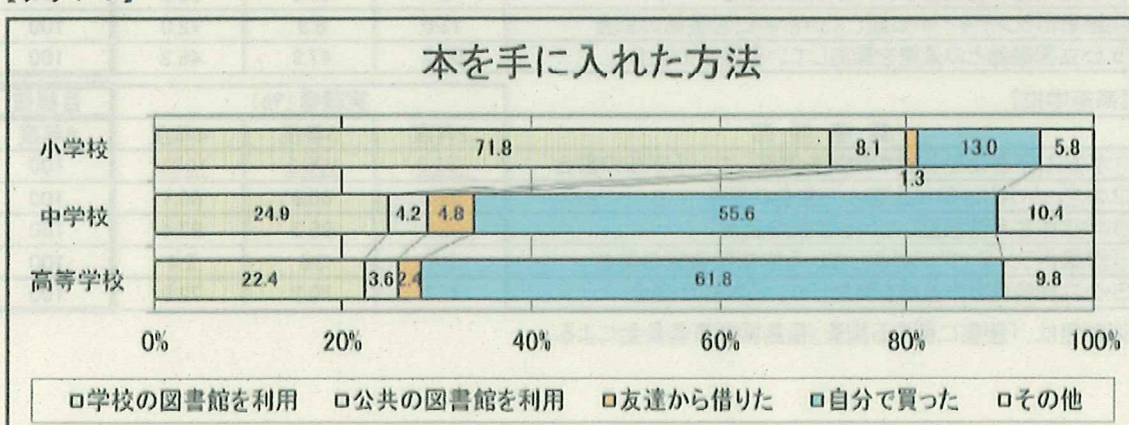
【グラフ5】



5 「本を手に入れた方法」について（【グラフ6】参照）

- 小学校では、「学校の図書館を利用」と回答した児童の割合が全ての学年において最も高く、小学生全体では71.8%（前年度70.6%）を占める。続いて「自分で買った」と回答した児童の割合が13.0%（前年度14.3%）となっている。
- 中学校では、「自分で買った」と回答した生徒の割合が全ての学年において最も高く、中学生全体では55.6%（前年度57.3%）を占める。続いて「学校の図書館を利用」と回答した生徒の割合が24.9%（前年度24.4%）となっている。
- 高等学校においても中学校と同様の傾向が見られ、「自分で買った」と回答した生徒の割合が全ての学年において最も高く、高校生全体では61.8%（前年度61.7%）で、「学校の図書館を利用」と回答した生徒の割合が22.4%（前年度23.4%）となっている。
- 小・中学校においては、「学校の図書館を利用」と回答した児童生徒の割合が年々高くなっている。

【グラフ6】



【参考資料3】

【子ども読書活動推進委員による第二次計画の検証】

1. 調査対象者

子ども読書活動推進委員

2. 調査方法

無記名の回答方式

3. 調査期間

令和5年11月11日～11月20日

4. 回収数

100%

5. 調査結果

家庭での読書活動の推進	<p><活動内容について></p> <ul style="list-style-type: none">・月一回、読書週間を設け、家読カードに記入後、学校に提出するようにしています。・家庭での読書の機会が増えるよう、様々なジャンルの本を公民館図書室で貸出しています。・近所の子供が遊びに来た時、一緒に本を読むなど。・「うちどく」について、学校だより等で各家庭に呼びかけを行った。・朝と昼の放送で家読をするように呼びかけた。・学びのファイルに毎日家読ができるように位置づけた。・図書だより発行ごとにCiassiを活用して各保護者へ通知し、各家庭でも図書、読書について会話する機会を持つよう努めた。・読み聞かせグループとして特に活動はしていませんでした。今後推進計画に基づいた活動をしていきます。・家庭ではほとんど読書についての取り組みはありません。・親も子ども何をしているのか別生活ですのでわかりません。部活やスポ少などで今は余裕がない。
	<p><取組んでもらいたいことなどの意見></p> <ul style="list-style-type: none">・まだ字を読むことができない時期なので、実際にふれて、動きがわかる本があるのもいいかと思えます。・家庭では、なかなか（スペースの関係など）絵本をたくさんおける環境の人は少ないのではないかと思えますので、町内に絵本、本がいつでも借りられるところがあるのは大事ですよね。・地域での読書活動の推進に力を入れてほしい。・子ども親も心の余裕が無いとアンケートも書けない。本も読めない。（雪降り前の多忙な毎日で書けませんでした。）自分の事を顧みると、本を手にしたと思った時が子育て中も少しはありましたが、子育てが終わってからインターネットで直木賞作家位なら読めるかと思ひ手にしたのがきっかけでした。年老いて、学校図書から借りてもらって読んでいた母の事も今思い出します。

<活動内容について>

- ・読書タイムでは、子ども達に静かに本を読む習慣を身につけたり、教師が読み聞かせをしたりしています。
- ・月1, 2回図書ボランティアの方々に協力していただき、ブロックごとに読み聞かせを行っています。
- ・ブックスハートプレゼント事業で中学校・高校の選書を行いました。
- ・学級文庫の設置、生徒から1人一冊推薦図書を出してもらい、集計、掲示、ブックスハート事業の選書。
- ・①読書タイムの設定。(月・金 8:10~8:25)
- ・②ボランティアによる読み聞かせ。(年 14回)
- ・③総合的な学習の時間で郷土資料を活用している。
- ・⑤、⑦学校司書さんにより進めている。
- ・①毎週木曜の朝の時間に読書の日を設け、学校全体(児童・教職員全員)で取り組んでいる。
- ・②月2回のペースで読み聞かせを実施。昼の放送で昔語りを実施している。
- ・読書習慣期間中、図書室をより本を読むように「本の収穫祭」読書ビンゴを実施した。
- ・読書感想文を放送で発表させた。
- ・高校では、毎日の朝の読書(10分)を実施することで各生徒が自主的に本を読み、語彙力の強化を図った。
- ・図書委員会を中心に図書館の運営(日ごとの展示の企画、設営を含む)を行った。
- ・【新聞の活用について】子ども達に読んであげたい内容の記事や子どもの声などあったら切り抜きして、学年に応じた内容のものを読んであげている。
- ・前年度からの継続で、「本のおたより」を3小親子に向けて発行。3小ランチルーム前や図書室へ「本の特設コーナー」の設置。今年度は新たに”家読推進”、”保護者へも学校の本の貸出可”の掲示物作成・校内貼り出し。
- ・今年度の目玉の活動として、秋の読書週間「ちなみ」読書ビンゴ”を3校で実施。(『あしなが予算・今年度で打ち切り』を惜しみ、学校の新しい本が豊富な今だからこそ、紙に触れて読書の楽しさを味わってもらおう為。)
- ・今年度、3校で本の読み聞かせの実施。(昨年度はコロナ禍で見合わせ)

<取組んでもらいたいことなどの意見>

- ・家の本を読んでいるという生徒もいるのですが、どの程度読んでいて、どんなジャンルのものを読んでいるのか詳しく把握できれば、いわゆる一般的な中学生、小学生への推薦図書以外にも一人一人に合った本をおすすめでき、本にふれる機会を増やせるのかなと思います。アンケート等の結果を会議等での場に限りせず随時教えていただけると有難いです。
- ・学校としては、可能な限り取り組んでいます。
- ・「ブックスハートプレゼント事業」は生徒も楽しみにしているため、今後もぜひ継続していただきたい。
- ・子ども新聞の活用等良いと思う。
- ・引き続き、ボランティアさんの読み聞かせや、司書さんの配置をしていただきたいです。
- ・各小学校から中学校に連絡でなく、公民館から中学校へ電話やお知らせ配布をして欲しい。
- ・3小学校、子ども達の本の返却について。小学校の本と県立図書館あづま号の本の返却を、中学校でも呼びかけが必要と感じる。小学校卒業生の保護者が時期外れに小学校職員室へまとめて本を返却するケースや、あづま号の本が数年超えて兄弟によって返却されたことあり。各小学校で学年末に校舎内へチラシを本の返却を求める内容で司書が毎年貼り出しています。小学校では今現在は、簡単に個人への本の返却を司書から伝えられない。(誰が何を返していないか司書は判らない現状。)ちなみに、中学校はあづま号は利用していない。
- ・書籍でなく、パンフレットについてですが「町の特産品ガイド」内容の町パンフレット等は、小学校でも学習に大いにためになる為、公民館だけでなく学校図書室にも最新のものをいただくと助かります。(ネットで画像分かりにくく、パンフレットそのものが欲しい要望あり。必要な授業中、公民館にかけ足して事足りたケースあり。)

【参考資料 4】

【保護者へのアンケート結果】

1. 調査対象者

町内の保育所3歳児以上の保護者、小学校、中学校、高等学校（1，2年生のみ）の児童、生徒の保護者

2. 調査方法

無記名の回答方式

3. 調査期間

令和6年2月9日～2月22日

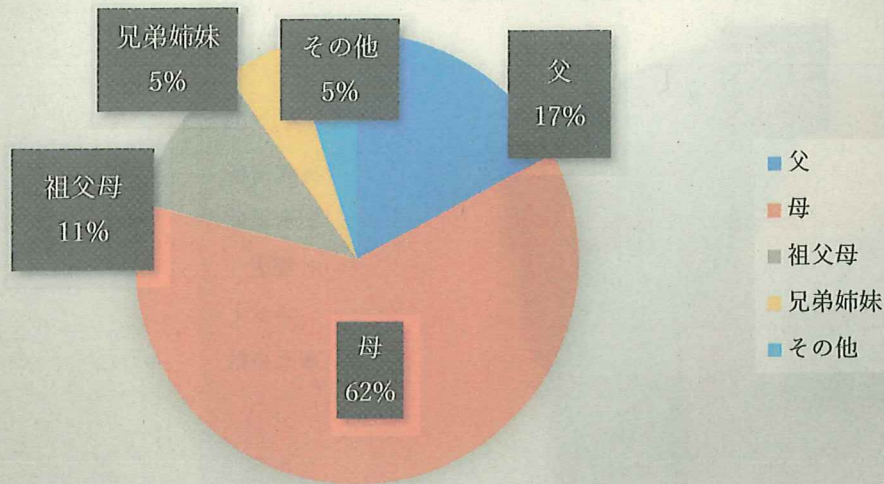
4. 回収数

1. 保育所 100%
2. 小学校 89%（只見82%・朝日87%・明和97%）
3. 中学校 84%
4. 高等学校 82%

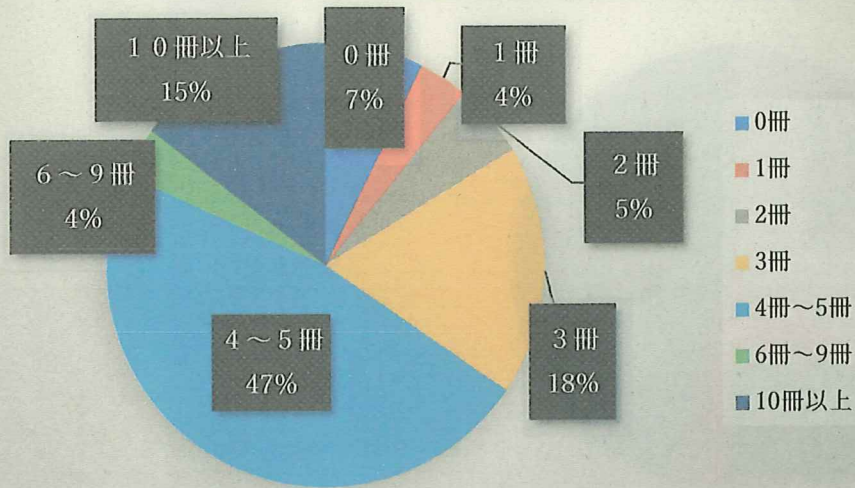
5. 調査結果別紙のとおり

※記述による回答については、貴重な意見としてそのまま掲載させていただきました。

主にどなたが本を読んであげますか



お子さんはどのくらい本を読んでもらってますか



質問 7 もっと本を読むにはどうしたらよいか。

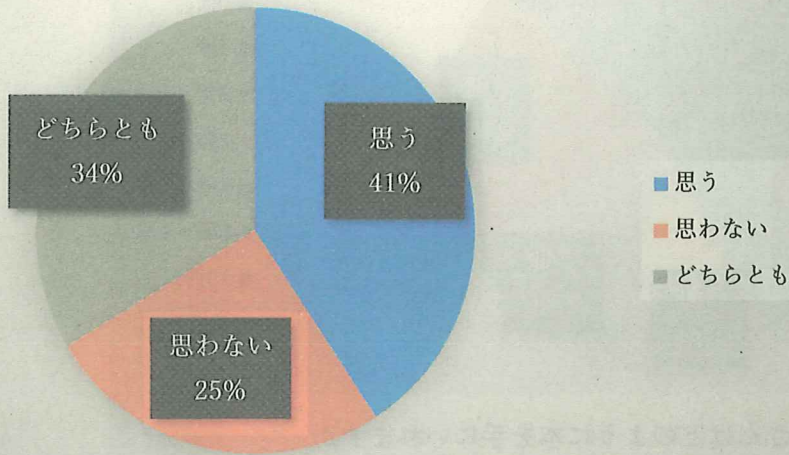
保育所 保護者	<ul style="list-style-type: none">・図書館に連れていく。・保護者の積極的な読み聞かせ（低年齢）。・好きな本に出会うこと。本と接する時間をふやすこと。・識字率を上げて言葉の意味を理解する。・おすすめの本のコーナーを作る。・いつでも手に取れるように本棚を置く。・自分で本を作る。・ゲームやテレビから離れる時間をつくる・興味のわき方はその子それぞれなので、その子に合った話し方、勧め方。・大人が楽しそうに本を読む姿を見れば、自主的に読むようになると思う。・友達と一緒に読む。・一緒に読んであげたりすれば読むと思うが、時間がない。・絵本より図鑑の方が喜ぶので見たいものを選ぶ。・朝登所したら一冊読むなど。・スタンプカードのようなものを作って本をたくさん読んで、興味をもってもらおうと良い。・遊べる場所に本を置く。・保育所で本を販売する。
------------	---

質問 8 もっと本を読むにはどうしたらよいか。

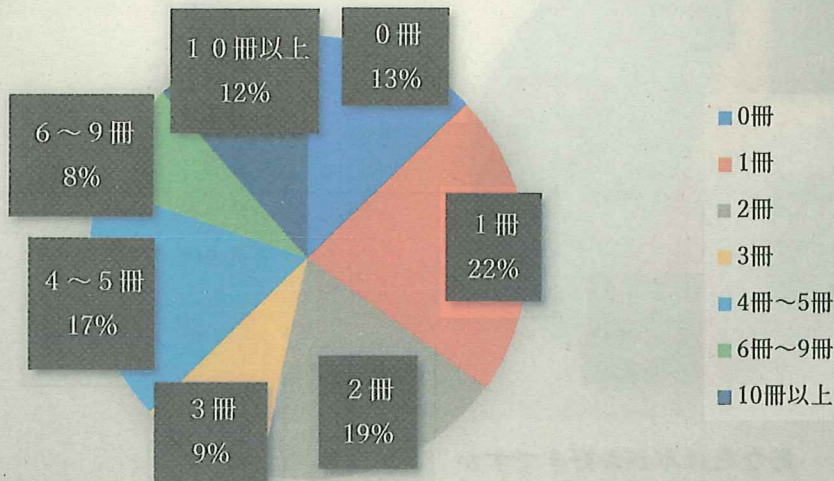
保育所 保護者	<ul style="list-style-type: none">・考えを文字にする。・こうしたい、こうありたいと思うようになり、成長につながる。国語力が身につく。・習っていない漢字も読めるし、わからない言葉を調べる。・想像力、言葉だけより理解しやすい（絵本）。・考える力、集中する力など。楽しい事で必要な力を身につけることが出来る。・読解力や知識が身につく。思考力や集中力の向上。・知識が増え感情が豊かになる。言語力が上がる。・集中力。・人の話を聞く、文字の読み書きが自分で調べたり聞いたりをして覚える。・コミュニケーション能力が高まる。・読んでみたら楽しいなど前向きな気持ちを持てるのではないかと思う。・生きる知恵がつくと思う。・会話がスムーズになる。勉強の理解が進む。
------------	--

小学校

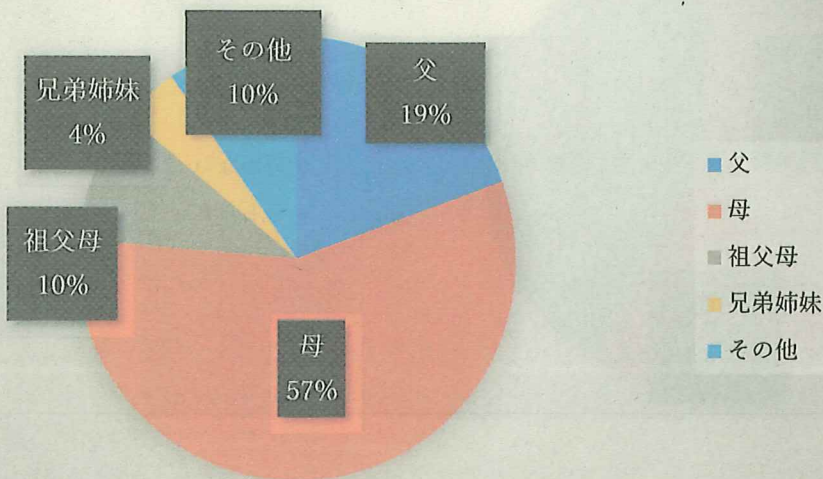
お子さんは本が好きだと思いますか



お子さんは1か月にどのくらい本を読んでいますか



主にどなたが本を読んであげますか



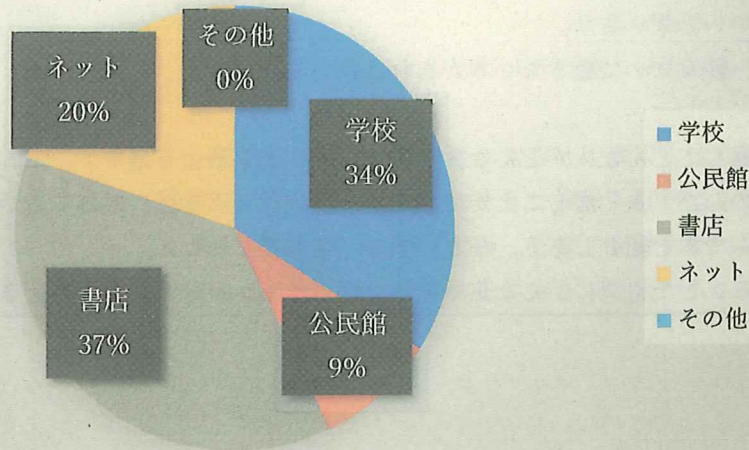
質問 7 もっと本を読むにはどうしたらよいか。

小学校
校保護者

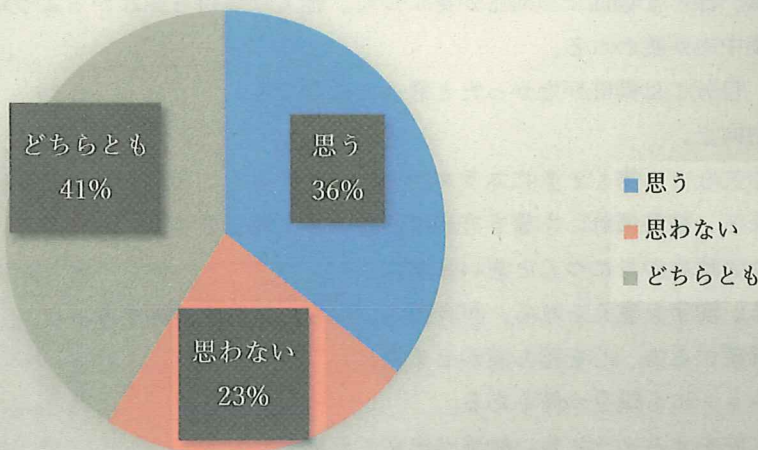
- ・親と一緒に読み聞かせ。親も絵本と一緒に読む時間をとる。
 - ・本を読むことで、自分にどのような良いことがあるか子が分かるよう伝える。
 - ・気軽に本を手に入れる環境があること。家や教室、遊び場など。
 - ・本を読む時間を作るなど
 - ・とにかくたくさん本に出会うこと。興味がでてくる。あづま号とか、いろんな本を探せるように喜んでいきます。
 - ・本の楽しさを知る機会を増やす。
 - ・ゲーム、メディアの時間を減らす。
 - ・時間を決めて1日のスケジュールに入れる。
 - ・親が本を読んでいる姿をで見せる（一緒に読む）、本を手に取りやすいところに置く、本屋や図書館につれていく。
 - ・本のおもしろさを教える。本を読む事で自分の力になることを知らせる。
 - ・本を好きになるきっかけができれば。
 - ・短い物語から始めるといいのでは。いきなり厚い本には手が出にくい。
 - ・家庭でも学校でも、すぐに手に取りやすい所に本を置く。
 - ・小さいうちから習慣づける。
 - ・いろいろなジャンルの本を読み聞かせする。
 - ・小さいうちは読み聞かせ。
 - ・IT化と両立はなかなか難しいと思う。タブレットで読めるようにしていく事も必要かと思う。
 - ・先生がおススメしてくれた本は興味をもつようです。作者がどんな人物かなどエピソードがあればなお読んでみたくなると思います。
 - ・興味を見逃さないように聞く。
 - ・定期的に新しいものを見せる。本を読みながら、質問をしたり会話をする。
 - ・土日でも利用できる図書館があるとよいと思う。
 - ・今、十分読んでます。
 - ・字が大きくルビが付いていて子どもが興味をもっている小説などがあれば読むと思う。
 - ・小さい頃から家庭で本を読む習慣をつける。教員も本を読む姿を見せる。
- 興味をもたせる。
- ・本の紹介、本を借りる習慣をつける。宿題が多くて、読書の時間がとりにくい。
 - ・声優体験などで絵や場面に言葉が与える情景を体験する。
 - ・興味ある本をアンケートを取って購入してもらう。
 - ・本を読むだけの図書館だけでなく、他の機会でも使えるようにして、本を目にする機会を増やす。

- ・以前より本を読むような指導が少なくなってきたように思います。もっと読むように言ってもらいたいです。
- ・土日でも本が借りられると嬉しいです。
- ・宿題、音読で精いっぱい読ませる時間がありません。
- ・子どもと一緒に本を借りる機会が欲しい。授業参観の後など。
- ・いつでも学校で借りた本が持ち帰られると嬉しいです。
- ・本に時間を費やせるのは学生の時なので、その機会を増やしてもらいたい。
- ・下校後も学校から手軽に借りて、家でも読めるようにしてほしいです。
- ・町の図書館をつかってほしい。明るく暖かで、オープンな場所。
- ・プロの方に話を聞く。
- ・本がエンタメや暇つぶしとして環境を整えてもらえるとありがたい。
- ・図書館スペースをオープンスペースだとよい。
- ・楽しく簡単に読める本をそろえてもらいたい。

お子さんはどのように本を手に入れますか



あなたは本がお好きですか



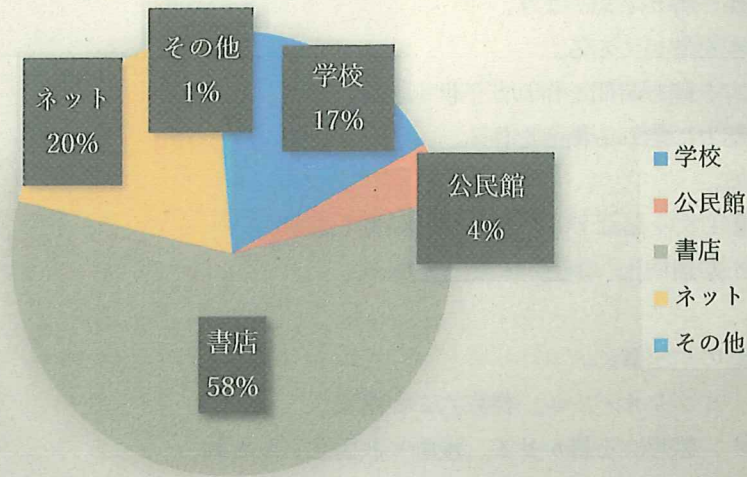
質問7 もっと本を読むにはどうしたらよいか。

中 学 生 保 護 者	<ul style="list-style-type: none"> ・親が家で本を読む姿を見せること。読書を生活の一部にすること。 ・色々やってみたがわからない。 ・一緒に読んで内容について話したりする。 ・小学校低学年くらいまでは就寝前の20分程、本の読み聞かせを每晚していましたが、この時期までに自身が本好きになればその後本を読む事が好きになると思います。本を読んでもらうことが好きでも、自分で読むことが好きにはなりませんでしたね。 ・文字を大きくして読みやすくすると良いと思います。ページ数を減らす！ ・学校からの購入依頼。 ・近くに書店があれば読むと思います。 ・本を読む事を習慣化させる。 ・親子で同じ時間に読書をする。 ・朝、昼休みの読書の時間をつくる。 ・テレビやインターネット等のメディアでの情報を減らす。
----------------------------	---

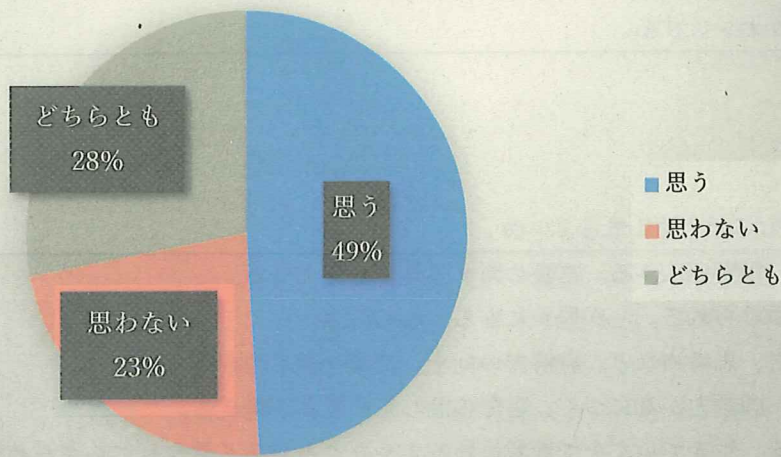
質問9 学校公民館への要望

中 学 校 保 護 者	<ul style="list-style-type: none">・要望ではありませんが、公民館に読みたい本を伝えると、いつもすぐに入荷してくださりありがとうございます。いつもありがとうございます。・読書感想文コンクール開催・子どもたちに購入する本を選ばせる・単に新書の増書だけでも意味はないと思われる。継続して「本がある」という環境が大切だと思うので、本を管理していく体制は維持していく必要があると思われる。・県立図書館の職員さんの話や専門の方の読み聞かせなどをしてみる。・公民館祭りや各種イベントで、朝日地区の昔語りや町内読み聞かせボランティアの方、他特別ゲストとして絵本作家（町として呼ぶ）による読み聞かせや読書推進のトーク・図書館を作ってほしい。土日でも見れる環境がほしい。大人も一緒になって見ることも必要。・毎日コツコツと学校で読むのは良いが、夏休み何冊もいっぺんに持ち帰り（小学校）読みましようでは、本があまり好きではない子は自分から読みません。形だけで、読まずに学校へもって行く…ということが我が家にはありました。（すみません）1冊読んだら借りに来る…というやり方は難しいのでしょうか？・いろいろな人（役場の新人とか）に読み聞かせをしてもらえたら楽しいかとも思いました。・映画の原作など、子どもの興味のある分野やエッセイ（短編）などを置くのは？・保育所の頃はたくさん本を読みましたが、小さい頃本を借りると、汚したり切ったりする事に気がつかれました。公民館にもたまに用事がある時に行くと、良い本があると思いますが、家が遠かったり空いている時間に行けない。入りづらいです。・土・日も貸出しできるサービスがあればいいなと思います。・ブラックジャック等素晴らしいマンガもあります。読み込めるものを本としていただけると間口が広がると思います。・今まで通り、読書の時間はあったほうがいい・読書が大切であれば、機会や場所、物ではなく時間が必要だと思います。・子どもの興味のある本を置いてほしい。・CD、DVD等も貸出OKに。・長時間居られるような環境ならば自分もいつも利用したいと思う。・今も配置、ディスプレイの工夫をされていると思いますが、なお、興味が引く配置をお願いしたいです。
----------------------------	--

お子さんはどのように本を手にいれますか



あなたは本がお好きですか



質問 7 もっと本を読むにはどうしたらよいか。

高校
保護者

- ・本と触れ合える機会を増やす。読書の時間を設ける。
- ・気軽に図書館に通うようにする。
- ・小さいころからの本の読み聞かせ、読みたくなるような楽しい本。
- ・読書の大切さをわかってもらう。
- ・スマホが世の中から消えたら。
- ・今、朝の時間読書の時間になっているとききました。その方法いいです。
- ・本を買う。
- ・ゲームや SNS から離す。
- ・楽しい本やわかりやすいマンガ風の本を多くするどんな形でも読書で子どもの世界が広がり、心が豊かになると思います。
- ・書店を増やす。
- ・初めはマンガから入り、段々と文庫本等へ移行させる。
- ・自分の興味をもっと知るためには本が有用だと考えるようになること。

質問9 学校公民館への要望

高 校 保 護 者	<ul style="list-style-type: none">・小さい子をもつ親子さんからは図書館があったらいいなど・今話題の本を置く。・公民館で本を貸し出してくれるので助かります。・読書感想をもっと授業に取り入れたほうがよいかと。・公民館：現在の図書コーナーでは子どもの絵本はいいが、本を選んだり読んだりするスペースが不十分。学校：今の子どもは本以外の楽しみが多く、興味が向かない。学校では十分に本の活動をしている。もっと知りたい、それには本を読むという方向に持っていけるとよい。できれば学校や施設にダイジー図書（音声とテキスト、画像が出てくる図書）を設置してほしい。・公民館の図書館がもう少し入りやすい（明るい）といいと思います。子どもたちが集まりやすい環境・場所になると良い。・軽食コーナー、お茶できる施設があるとよい（土・日も）。・私は漫画大好きです。どんな形であれ、子供らが興味を持ち手に取ることが何より大切かと思えます。そんな興味を持つきっかけを作っていただけたらと思います。・子どもが読みたいと思った本を準備して読んでもらう。・進路の本（いろいろな職種）をもっと増やしてほしい。・休日でも借りたり返却あるいは学習に利用できるシステムがあれば、さらに活用がすすむと思えます。・進路の本。・高校生が保育所、小学校で読み聞かせをするのはどうでしょうか。子どもたちに読みたい本のアンケートをとる。みんなで同じジャンルの本を読んでみる（今月は冒険の本、今月は歴史の本など）。・読み聞かせをした後に、子どもに説教じみた言葉かけをしたり、すぐに感想を求めたりしないで余韻に浸らせることもしてほしい。
-----------------------	---

【参考資料6】

只見町子ども読書活動推進委員会名簿（任期：～令和6年3月31日）

No	氏名	所属	備考
1	三瓶育子	只見図書ボランティア代表	
2	吉津健三	朝日図書ボランティア代表	
3	飯塚孝子	明和図書ボランティア代表	
4	目黒ハナエ	民生児童委員協議会会長	
5	増田良	町小中学校 PTA 連絡協議会代表	
6	渡部悦子	只見町昔話の会代表	
7	齋藤エミ	学校司書（小学校）	
8	春日沙耶花	学校司書（中学校）	
9	佐藤幸也	只見小学校図書担当	
10	目黒貴子	朝日小学校図書担当	
11	三瓶美結	明和小学校図書担当	
12	鶴巻拓真	只見中学校図書担当	
13	湯田ときえ	只見高等学校図書担当	
14	三瓶美由紀	只見公民館	
15	山内希実子	朝日公民館	
16	齋藤由美子	明和公民館	
17	星友美	保健福祉課	
18	梁取洋一	保育所長	
19	吉津なおみ	教育次長	

事務局

1	渡部公三	教育長	
2	目黒祐紀	中央公民館	
3	目黒英樹	中央公民館	